

目 次

I. 総合研究報告

地域共生社会における調剤業務の効率化に係る方策の有用性・安全性の
評価・検討のための研究

入江 徹美 1

(資料 1-1) 処方単位で個包装された薬剤を用いた調剤に関する、
各ステークホルダーにとっての主なメリット、デメリット・課題 24

(資料1-2) 処方単位で個包装されている医療用医薬品（経口投与剤）の例 25

(資料1-3) 日本薬学会第145年会（福岡）年会シンポジウム（発表スライド） 34

(資料2-1) 薬剤師を対象としたWebアンケート調査結果 56

(資料2-2) 海外視察報告 72

(資料2-3) 薬剤師以外のステークホルダーへのヒアリング・アンケート調査の
説明用研究概要 107

(資料2-4) 薬剤師以外のステークホルダーへのヒアリング・アンケート調査結果 108

(資料2-5) 公開シンポジウムポスター 128

(資料2-6) 公開シンポジウムスライド「処方単位で個包装された薬剤を用いた
調剤に関する薬剤師へのアンケート調査および各関係者へのヒアリング
中間報告」 129

(資料2-7) 公開シンポジウムスライド「ドイツ、イングランドでの
現地視察調査報告」 141

(資料2-8) 公開シンポジウムスライド「処方単位で個包装された薬剤を用いた調剤に
関する一般市民の認識・意識調査」 152

(資料2-9) 公開シンポジウムスライド「機器類導入による調剤業務の効率化および
安全性に関する検討」 164

II. 研究成果の刊行に関する一覧表 174